

仙人通信 106 鳴神山(981m)

鳴神山は、桐生市の東の足尾山地北西に鎮座し、絶滅危惧種のカッコ-ソウの保護地として、有名な山である。今回は桐生市川口から県道 338 号の終点である駒形へ、沢沿いに山頂をめざし、帰路は赤柴林道で周遊するコースとした。駒形の廣土橋では 3 基の砂防ダムの建設が始まり、工事の機材置き場等の関係から、路肩に車を止め、警備の人に見送られてのスタートである。沢沿いの林道には、日の光が入り白いフスマ・タチスミレ・ニリンソウ・黄色いクサノウ(草王)・キケンマ・ヤマブキが、又地べたではカキドウシ・トキワハゼ・ヘビイチゴが賑やかに咲き誇る。15 分程で檜/杉の登山道となり林床では、ヤマブキに似た黄色いヤマブキソウやヒトリシズカ・マムシソウ・同形の花の先端から長いひも状の管が地面まで垂れたウラシマソウが咲く。薄青いたちつボスミレも元気である。沢と登山道の間では、ニリンソウがあちこちに群落を作る。鳴神山は梅田向斜に属しチャートと粘板岩や石灰岩が主体のペルム紀の岩帯で構成され、褶曲変成を受けた、石を観察するのも楽しい。瀬音に時折コノハズクやヒキガエルが低い声で鳴くなんとも長閑な山登りである。ニリンソウより一回り大きいイチリンソウやトウゴクサバノウも白い花が見事である。約 1 時間程で瀬音も切れ、両側の尾根の上に青空を見て、恰も挿鉢の中を登る感じだ。白いササユキ・チゴユリも散見される。カタクリは少し時期が過ぎて、実をふくら増している。紫のミツバツツジが艶やかに山肌を染める。黄色いミツバチグリも愛らしい。

1 時間 30 分程で雷神岳神社前に出る。鳴神・雷神と群馬らしさを肌で感じる。

神社の傍らにはヤマサクラが小さな白い花を、足元では白い小さなフモトスミレと有名なナルカミスミレ(ヒトツバエゾスミレ)が咲いて迎えてくれた。山頂まで 5 分程で鳴神山(桐生嶽)の山頂である。ガスが出て遠望は利かないものの、かつて仙人通信で報告した、桐生川の根本・熊鷹や片品川方面の赤城・武尊・袈裟丸・皇海等の山達はバッチリだ。橙色のヤマツツジが咲き始め、ミツバツツジも綺麗である。残念ながらアカヤシオの開花は低山のためか盛りを過ぎていた。双耳を成す仁田山から梶田までは、座間峠に向う山脈に咲くヤマザクラやミツバツツジを眺めながらの 20 分である。梶田には石の祠が祭られ、カッコ-ソウの群生地を示す道標がある。南面の杉林の林床に保護の囲いがあるものの、咲き始めたばかりのカッコ-ソウに会う事ができた。サクラソウ科サクラソウ属の花で茎は太く葉は丸みを持ち、どちらも細い白い毛が生えており、サクラソウの仲間では、『ズングリ・ムックリ』とのイメージである。

近くにはイチリンソウやフモトスミレ・フデリンドウも静かに目立たずに咲いていた。

梶田から 10 分程下ると小さなセセラギが始まり、登り詰めた時と同様な花達が待って居てくれた。登山道は沢の右手となり 10 分程で、赤柴林道である。林道の崖は重機で削り取られ興ざめして崖の上を望むと紫の濃いオカスミレやタチツボスミレ・白いマルハスミレではないか、嬉しさの余りカメラを取り出してシャッターを切った。林道の両側では白いウノハナが咲き始めたばかりだ。ムラサキケマン・キケマン・トウダイグサも加わり途切れる事がない。大きなムラサキのサクラスミレ・咲き始めたばかりのラショウモンカズラ・沢の水に濡れるようにヒロハコンロンソウである。瀬音に掻き消されるように、カッコ-(今年初めて)が鳴き始めた山路 4 時間でした。

(h 2 4・5・8)

ナルカミスミレ



山頂のミツバツツジ



カッコ-ソウ

